

令和三年

九月十一日(土)午後二時半開演

矢来能楽堂

ひとつの愛のかたち

能

巴

味方玄



Noh Society
Japanese Arts & Culture

ニューヨークを拠点に能楽や文楽といった日本の芸術文化を発信するNPO法人 能ソサエティ (www.nohsociety.org)

第6回 能ソサイエティー東京公演

令和3年9月1日(土)14:30開演(14:00開場)

於 矢来能楽堂

解説 味方玄

休憩

能『巴』

里女/巴	味方 玄
旅僧	御厨 誠吾
所の者	野村 信朗
笛	左鴻 泰弘
小鼓	成田 奏
大鼓	河村 凜太郎
地謡	山崎 正道 浅見 慈一 観世 淳夫 大江 広祐
後見	鶴澤 久 鶴澤 光



味方玄 みかた しずか
観世流能役者

1966年京都生まれ。幼少より父・味方健の手ほどきを受ける。片山幽雪(九世九郎右衛門)、当代片山九郎右衛門に師事。2001年「京都市芸術新人賞」受賞。2002年KBS京都テレビにて能楽入門番組「能三昧」(全28回)を監修、出演する。2003年新作能「待月」の脚本を手がけシテを演じる。2004年「京都府文化賞奨励賞」受賞。2006年淡交社より「能へのいざない」を出版。2011年、重要無形文化財(総合)認定。

<お問い合わせ>

能ソサイエティージャパン:
info@nohsocietyjp.org

「能を世界へ!」を企画コンセプトとする本公演は収録され、その編集映像(英語字幕付き)を11月23日午前10時(日本時間)にオンライン企画として国内外に向けて配信予定です。詳細は能ソサイエティージャパンのホームページ(www.nohsocietyjp.org)にてお知らせします。

助成 EXPO'70 FUND
(公財)関西・大阪21世紀協会

協賛 MSIG

A Member of MS&AD INSURANCE GROUP

能「巴」 あらすじ

木曾の国から都へ上る旅僧(ワキ)が、途中、江州(現滋賀県)粟津が原に来かかる。しばらく休んでいると女(前シテ)が現れ、神に参り涙を流している。女は僧が木曾の者と聞くと、「粟津が原の神の名をご存知のはず、これは木曾義仲の住まれた所、また神と崇められて祀られている」とやや興奮気味にいう。義仲を祀ってあるのかと、僧も手を合わせる。女は僧に読経を願い、自らも手を合わせる。夕暮れになり、女は「実は私も亡者です、名はこの里人に尋ねてください」と言い残して草葉の陰に消えてしまう。

僧は所の者(アイ)から義仲のこと、巴のこと、ここ粟津が原の戦のことなどを聞き、亡き影を弔う。

やがて巴御前(後シテ)甲冑を帯して現れる。「女とてご最後に、捨てられまいらせし怨めしや」と嘆き、そして義仲の戦の連勝や、この粟津が原での最後を語る。義仲の馬が薄氷の張った深田に踏み込み、動けなくなったところを、巴は義仲を替わりの馬へ乗り移らせ、なんとか松原まで逃げ延びさせた。そしてもう最後と「御自害なさいませ、巴もお供いたします」と促した。しかし義仲は「おまえは女、忍んで生き延びることもできる。そしてこの守り、小袖を木曾へ届けよ」という。巴は、涙を流すしかなかった。敵が攻め込んでくる気配に、巴は長刀を持ち、わざと敵を近づけて誘き寄せ、八面六臂の戦いで斬り伏せ、大勢を遙か遠くまで追いやっていった。

急いで義仲のもとへ帰るが時すでに遅く、義仲は自害しており、枕元には小袖、守りが置かれていた。巴は泣く泣く賜り、死骸に別れを告げその場を立ち去る。そして少し離れた粟津の汀で自らの武具を解き、義仲の形見を持ち木曾へと落ちていった。



味方玄「巴」
撮影:金の星波辺写真場

入場料

[一般] 5,000円 [学生] 3,000円 *全席自由

<チケットお取り扱い>

Peatix (チケット販売サイト): <https://noh2021.peatix.com>

能ソサイエティージャパンHP: www.nohsocietyjp.org

会場/矢来能楽堂 東京都新宿区矢来町60



東京メトロ東西線「神楽坂」駅2番出口徒歩2分

都営地下鉄大江戸線「牛込神楽坂」駅A1出口徒歩5分

お客様へのお願い

新型コロナウイルス感染防止対策として、入場時の検温、手指消毒、マスクの着用のご協力をお願い申し上げます。発熱、咳などの風邪症状、倦怠感など体調が優れない場合はご来館前に医療機関にご相談願います。出演者の変更の場合はご了承ください。

チラシ表面の使用写真

味方玄「巴」 撮影:山口 宏子